

公表

事業所における自己評価結果(児童発達支援)

事業所名		公表日				
白糠町子ども発達支援センター		2026年 2月 10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・配置基準より多く職員を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・見通しを持って活動できるよう児童の特性に合わせた設備や環境の配慮をしています。事業所内はバリアフリーになっていますが、外玄関から2階の内玄関までは階段です。	・利用する児童でエレベータを必要とする場合は白糠学園に設置されているエレベータの使用を白糠町に約束して頂いています。実際に使用が必要となる場合には詳細を打合せしたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、清掃と消毒作業をしています。 ・各活動に合わせてパーティションなどで仕切って見て分かるようにしています。	・今後も子どもたちの状況や活動に合わせて活動エリアを工夫して配置し、過ごしやすい環境が維持できるようにしていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・くしろ地域生活支援センター全体で実施していません。	・今後は法人全体での実施について検討しています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・内部研修や外部研修を受け、事業所職員に伝達をしています。	・内部や外部研修、WEB研修へも積極的に参加できるように今後も機会を作りたいと思います。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			・玄関の掲示以外に今後は各家庭に支援プログラムを配布するなど周知に努めていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・行動観察やアセスメントツールの使用、児童や保護者から伺ったニーズを含め職員間で話し合い支援計画を作成しています。	・今後も職員間で情報交換しながら取り組んでいきたいと思っています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・標準化されたアセスメントツールの使用はありませんが、行動観察によるアセスメントや簡易的なアセスメントツールを使用しています。	・今後も保護者が医療機関等で発達検査を実施しているときには、検査結果を教えてください。検査結果の助言や内容を療育に活かしていきたいと思っています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・個別、小集団での活動を設定するなど、児童の状況に合わせた活動内容を職員間で検討しています。	・今後も立案者を交代したり、活動中の役割分担を確認しながら、職員全員で取り組んでいきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・限られた活動時間内で取り組める活動順を変えたり、活動内容が固定化しないよう工夫しています。	・今後も児童の状況に合わせてスケジュールは工夫し、パターン化した活動にならないようにしていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・活動中の役割をどう分担したのかなど可視化し、役割分担を把握、共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・保護者からの伝言や連絡も含め職員全体で共有しています。	・気になる行動が見られた場合、なぜそうなったのか場面の前後の様子を詳細に伝え、話し合っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			・今後どのような視点で観察し記録していくか話し合い、状況を正しく把握できるように記録を残して児童の行動や様子の状況整理を行い、支援方法の見直しや改善ができるようにしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・モニタリングや計画作成時期を過ぎないように一覧を作るなどして取り組んでいます。	・今後も計画作成前には保護者や本人の意向を確認していききたいと思います。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			・今後も対象児童の状況に最も精通した職員が参加するよう努めます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・ケース会議等がある場合には参加しています。必要に応じて各関係機関と情報共有を図り、連携できるようにしています。	・今後も各関係機関と情報交換を行うよう努めます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・引き継ぎ資料を作成して、情報を共有しています。	・今後も情報共有ができるようにし、引き継ぎの機会を設けるなど要望があればいつでも応じます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・引き継ぎ資料を作成し、学校の春休み期間など就学までに情報交換をしています。	・就学時には引き継ぎ資料を作成し、引き継ぎを行います。必要に応じて事業所で取り組みの様子などの見学も受け入れていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		・地域に児童発達支援センターや他事業所は無いため、法人内の心理士や言語聴覚士より助言を受ける機会を設けています。	・今後も法人内の心理士や言語聴覚士など専門職と連携を図り、助言を受ける機会を設けていききたいと思います。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・認定こども園を利用しながら療育を利用しているため、療育期間中に交流の機会を設けていません。	・事業所の運営として交流を目的として療育を行っていないため、療育時間中に交流をして欲しい等の保護者からの要望があれば検討します。その際はお子さんの特性など考慮しながらこども園とも検討していきます。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時や保護者の来所時などに直接活動の様子を伝えたり、必要に応じて連絡帳を使い情報交換をしています。	・今後送迎時や電話連絡、時間を調整して来所していただくなど、保護者の要望に応じゆっくり話せる機会を設けていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・保護者向けの学習会等の情報があれば、随時保護者へ周知しています。今年度は、法人内の専門職が保護者向け学習会を実施しています。	・ペアレントトレーニングやプログラムに興味や学びたいと要望がある保護者へは、案内やインターネットで視聴できるものなどお知らせはできますが、保護者の相談等は個別で対応し、家庭で取り組めることなど一緒に考えていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に説明し同意を得ています。	・今後も質問など随時対応していきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			・今後も児童発達支援計画は、その児童の最善の利益を考慮した内容となっているか検討し作成していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・見学時や定期的に支援計画やモニタリングの説明の際に保護者と話をする時間を設けていますが、それ以外にも保護者の要望の応じで対応しています。	・今後も、随時相談等がある場合には対応します。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・今年度は保護者同士が情報交換できる場として、きょうだい児も参加できる茶話会を開催しています。	・今後もきょうだい児も参加できる会などきょうだい同士の交流の機会が設けられるよう検討していきたいと思います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・こどもや保護者から相談があった際にはすぐにその場で対応するか、面談の日程を調整し安心して話せる時間を設けるなどこどもや保護者の申し入れに応じて対応しています。	・今後も、随時相談等がある場合には対応します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月お便りを発行し、利用予定、事業所の連絡先等を載せて各家庭に配布しています。また、法人のホームページにも載せています。	・今後もお便りを毎月発行し、利用予定日や活動予定、行事予定を発信していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・職員が知り得た個人情報は施錠できる棚に保管し、取扱いには十分に注意しています。関係機関等へ引き継ぎや情報交換をする際には、保護者の承諾を得てから行っています。	・今後も取扱いには十分気を付けていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・送迎時や電話連絡等で活動の様子など伝えています。意見等を伝えやすくなるよう話しかけるなどとしています。	・連絡帳の活用することや要望等があればメールを活用するなども検討します。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・地域住民を招待する行事は行っていません。	・保護者からの要望があれば検討します。その際にはお子さんの特性、個人情報など考慮しながら検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・今後は緊急時の避難経路や避難口、嘔吐物処理などマニュアルの中の実践方法など保護者に周知できるよう、事業所の玄関に掲示するなど検討していきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・火災、地震や津波、風水害を想定した避難訓練をそれぞれ年1～2度計画し、実施しています。	・今後も利用児童が避難訓練に参加できるよう実施していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・年度初めに児童の状況を再確認する際、調書を確認し、服薬や予防接種やてんかん発作など児童の状況を確認しています。	・季節性の予防接種は随時確認し、服薬の確認なども面談等の機会に定期的に確認していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			・医師からの指示書があれば従います。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			・今後も安全計画に沿った取り組みなど、内容についてはお便りに掲載するなど保護者家族に周知していきたいと思います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・くしろセンター内の他事業所の事例は、全員に周知し、すぐに閲覧できるように事例集を保管しています。事業所内でヒヤリハット等が発生した場合には、皆で対策等を検討しています。	・今後も全員に周知していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止に関する研修への参加やセルフチェック表での確認を行っています。	・今後も研修への参加、セルフチェック表での確認、職員間で話しやすい風通しの良い環境作りに努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			・今後もやむを得ず身体拘束を行うかについて、くしろセンターの委員会で検討確認し、個別支援計画に記載し説明をしています。